

年頭のごあいさつ



美浦村長
中島 栄

新年明けましておめでとうございます。

平成三十年の新春をお健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

本年も「人と自然が輝くまち みほ」の村政運営の先頭に立ち、執行部と村議会の総合力を生かし、長い歴史が育んできた美浦村の文化を守りながら、皆さまと共に歩んで参りたいと存じます。

さて、昨年を振り返りますと、北朝鮮が度重なる国際社会の強い抗議と警告を無視して、我が国を飛び越える弾道ミサイルの発射を強行し、さらに過去の核実験に比べはるかに大きな核実験を強行したことは、わが国の平和と安全に重大な脅威を及ぼすとともに、「非核平和都市宣言」を進める美浦村民の思いを侵害するものであり、断じて許すことはできません。日本政府には、拉致問題の早期解決を含め一層の外交努力を図るよう強く望みます。

昨今の国内の経済状況に目を向けますと、7～9月期の実質GDPは前期比年率プラス1・4%と、7四半期連続のプラス成長で、景気については緩やかな回復基調が続いているとされております。このタイミングで突然行われた衆議院解散総選挙は、消費税増税の是非、原発政策、北朝鮮情勢への対応について、国民に問う場となりましたが、結果は与党の圧勝となりました。国民が「現在の路線を継続していこう」という意思の表れであるならば、新内閣にはその期待を裏切る事のないよう、また、少子

高齢化や人口減少対策等山積している諸問題に対しても、確かな政策の実行を進めていただきたいと考えます。

一方で、面白い話題もありました。牛久市出身の稀勢の里関が、19年振り日本出身の横綱に昇進しました。土浦市出身の高安関も大関に昇進し、茨城県出身の関取として今後の活躍が期待されます。また、村民へのサービスの新しい拠点として、昨年3月に竣工した『地域交流館みほふれ愛プラザ』は、情報発信の場、少子高齢化の課題解決に向けた子育て支援機能、多世代交流スペース、地域産品直売所を併せ持つ地域交流の拠点であり、施設内に設置した子育て支援センターの利用者数は10月12日に延べ1万人を達成し、その効果は除々にはありますが表れつつあります。

この交流館について、10月に、まちづくり方針や多機能的な施設であること等が総合的に評価され、茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業の「まちづくりグリーンリボン賞」を受賞しました。また、11月には、交流館を中心とした「小さな拠点づくり」事業が特徴的であり、優良な取り組みであると認められ「地方自治法施行70周年記念総務大臣賞」を受賞いたしました。

美浦村のみならず全国的に少子高齢化と人口減少という深刻な状況に直面しております。しかし、先人たちが守ってきた伝統文化の継承や自然環境の保全は、私たちが担っていかねばなりません。魅力ある地域社会を継続していくためには、住民と行政が手を携え、主体的・自立的に施策を展開していくことが不可欠であり、それが基礎自治体たる美浦村の継承・発展につながります。美浦村が誇る霞ヶ浦をはじめとする自然豊かな景観は、人々の心に癒しと安らぎを与えてくれます。この素晴らしい環境を未来に繋いでいきましょう。これからも、特色のある、魅力あふれた施策を実施していきたいと考えております。

今後も「地域主権」の確立に向けて村民の皆さま自らが村づくりに参加され、「自分たちの村は自分たちで創り守る」を念頭に、ともに発展していくよう最大限努力して参ります。住民が主役の村政へのご支援ご協力を心よりお願い申し上げますと共に、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。